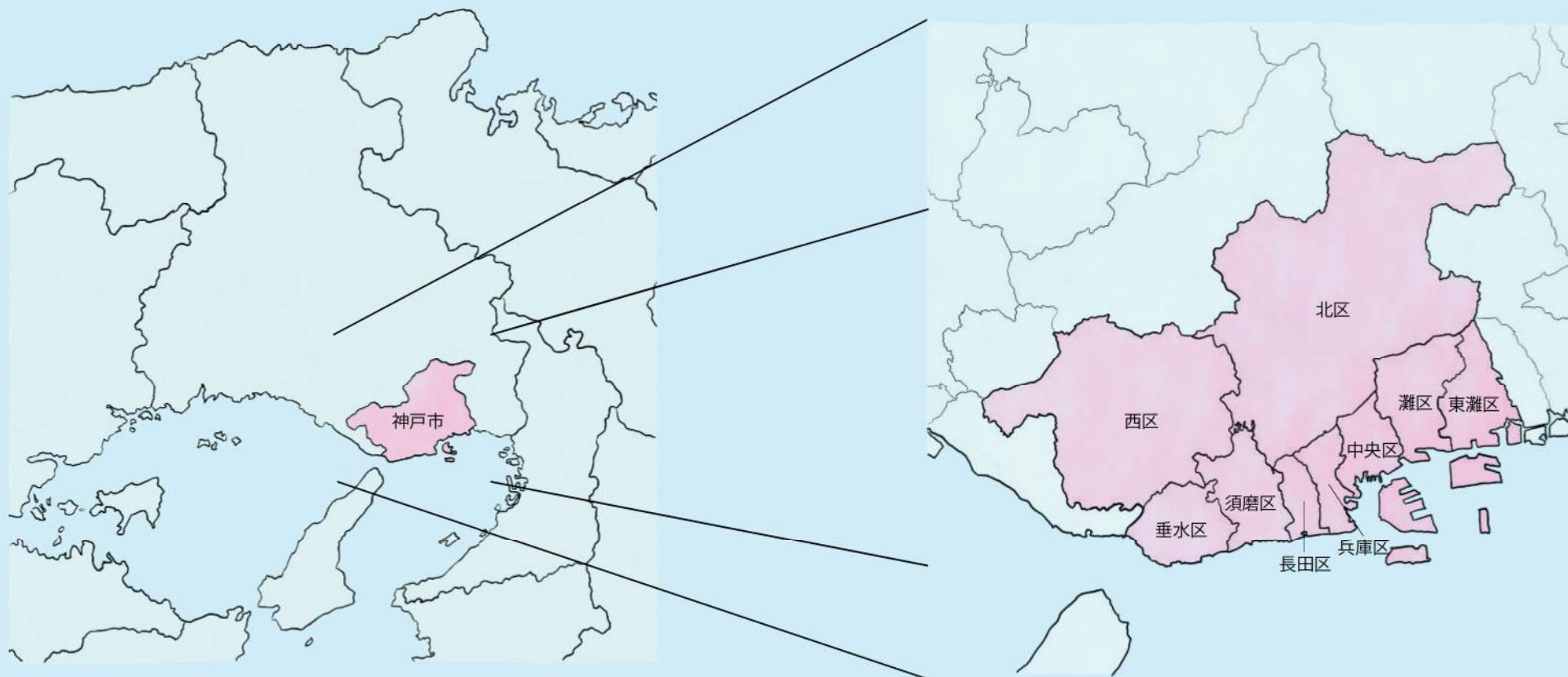


隠れた神戸

私の地元は兵庫県明石市である。その隣には県庁所在地である神戸市が位置する。神戸市と言っても9つの区からなり、それぞれの区で街の雰囲気異なる。それらの区にはどのようなポテンシャルがあるのだろうか。



神戸市は六甲山をはじめとする山々を有しながら海に面しており、一つの市ではあるが様々な顔を持つ。内陸に位置する西区や北区は神戸市の中でも郊外であり、ニュータウンや大型ショッピングモール、アウトレットなどの商業施設、工場団地大きな公園などが存在する。都心から少し離れた海沿いの垂水区や須磨区は複数の鉄道が通っており交通の便がよく、駅の近くにはアウトレットをはじめとする大型商業施設がある。また、明石海峡大橋や山登りスポットなどもあり海も山も楽しめる。都心周辺の長田区、兵庫区、灘区、東灘区は比較的高い建物が連なり、様々な商業施設が立ち並ぶ。仕事のために多くの人がこの区を訪れる。最後に中央区は、神戸市はもちろん兵庫の中心都市である。多くの商業施設や飲食店、オフィスビル

が立ち並ぶ。また、中華街もあり、連日にぎわっている。

このように、神戸には様々な風景が広がっている。しかしながら、多くの人は都心である中央区に目が行きがちである。私は多様な神戸には中央区以外にもポテンシャルの高い区があるのではないかと考える。そこで、今回は医療・福祉の充実度、経済状況、人口の増減の三つの基準でポテンシャルを考えることにする。高齢化にある日本では医療・福祉は充実させる必要があり、充実していると、住民の満足度も高いだろう。また、経済が活性化することで住民の暮らしも豊かになり町全体も活気が付くだろう。

1. 医療・福祉



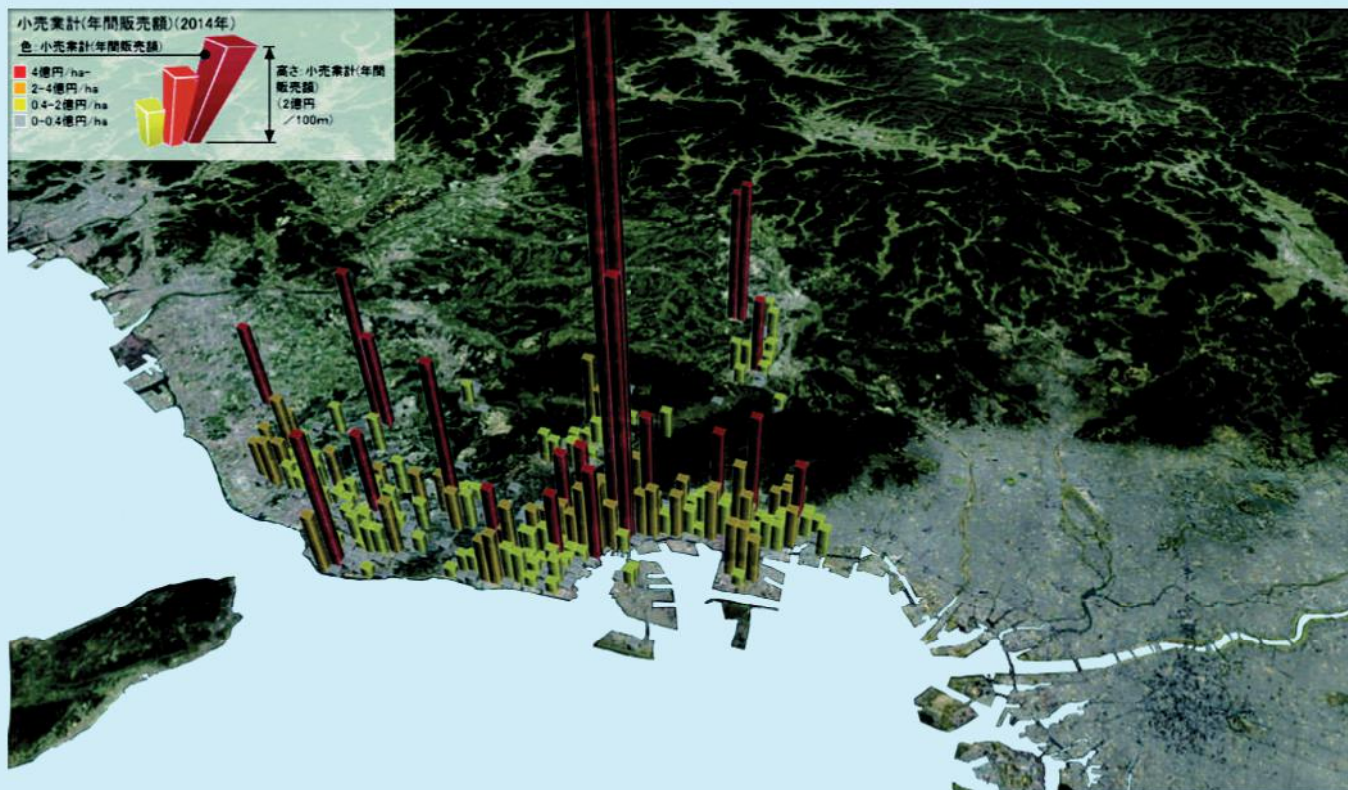
左のグラフ 65 歳以上の人口とその割合を示している。高齢者が密集している地域もあり、その地域では、医療・福祉施設が充実しているのだろうか。

今回は、高齢者 1 人あたりの医療・福祉建築物の床面積を算出してその値によって医療・福祉施設の充実度を評価する。

表を見ると、西区と兵庫区、垂水区は 0.2 を越えており充実していると言えるだろう。反対に須磨区、長田区、中央区は 0.1 を下回っており、医療・福祉施設が十分ではないと考えられる。中央区は都心ということもあり、病院が少なそうではあるが、須磨区が少ないのは意外であった。須磨区にも多くの高齢者が暮らしていて、今後ますます増加すると思うので、須磨区にとって医療・福祉施設を増やすことは課題である。

	西区	垂水区	須磨区	兵庫区	長田区	中央区	北区	灘区	東灘区
高齢者数 (人)	57,294	62,261	49,167	32,099	31,825	33,518	62,118	33,522	49,623
医療・福祉用建築物 (m**2)	15,750	12,744	3,654	8,427	332	939	10,375	3,930	9,364
高齢者 1 人当たりの医療・福祉建築物 (m**2/人)	0.275	0.205	0.0743	0.263	0.0104	0.028	0.167	0.117	0.189

2. 経済



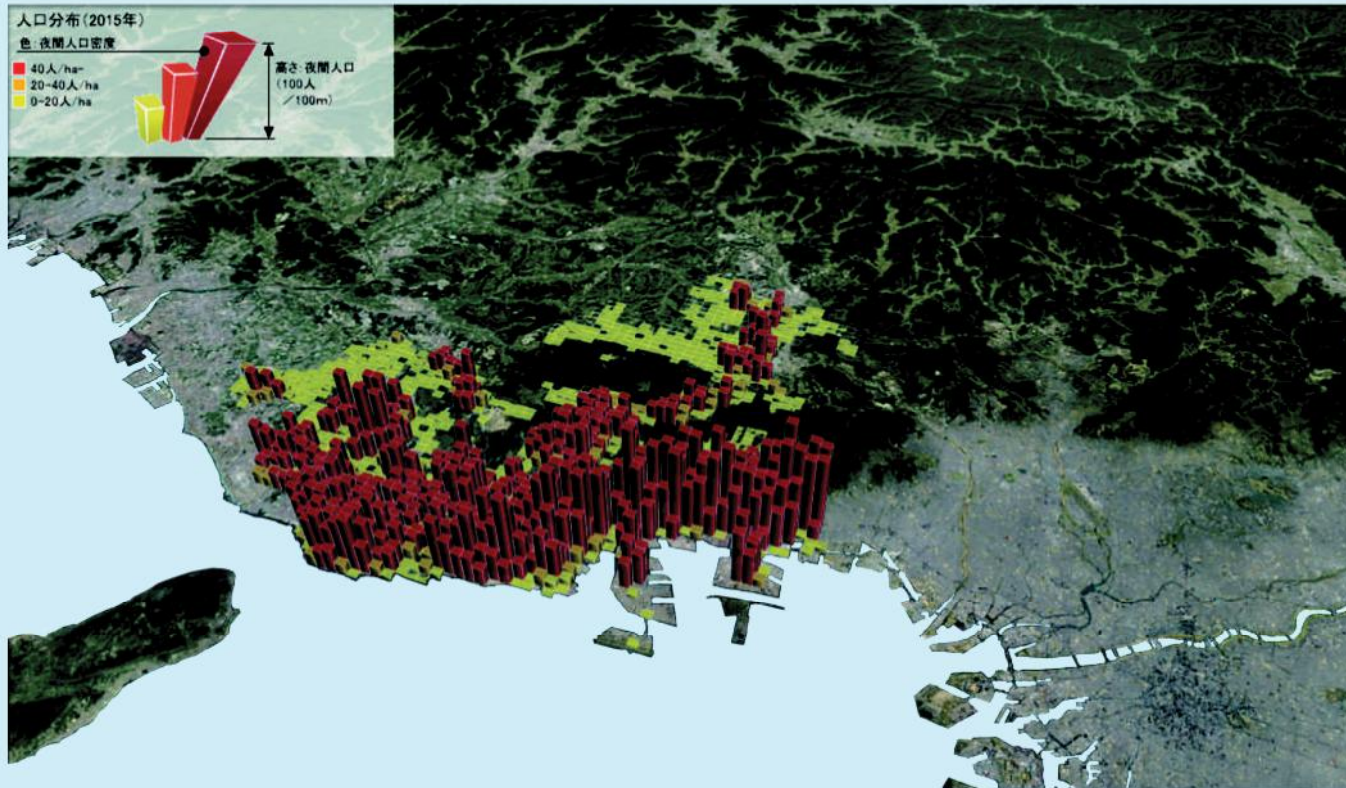
左のグラフは販売額を示している。中央区の販売額が突出している。他の区を見てみると、それぞれの区にある大型商業施設の販売額が大きい。そのため、中央区以外の区も経済活動が盛んに行われているのではないだろうか。

今回は、各区の売り場面積当たりの販売額の値を用いて経済状況を評価する。

下の表を見てみると、兵庫区が最も高く、次いで、東灘区、中央区である。グラフだけ見ると中央区がダントツだが、売り場面積が多いため3番目となってしまった。逆に値が一番小さいのは垂水区でその次が北区である。どちらの区にもアウトレットがあり、販売額は比較的大きいのだが、売り場面積も大きくなってしまっているので結果的に値が小さくなってしまった。

	西区	垂水区	須磨区	兵庫区	長田区	中央区	北区	灘区	東灘区
小売業販売額 (100万円)	247,486	168,088	117,160	103,039	76,283	619,815	207,026	99,290	230,506
売り場面積 (m**2)	247,230	216,150	92,661	68,295	66,569	451,610	225,115	74,870	159,336
売り場面積あたりの販売額 (100万円/m**2)	1	0.778	1.264	1.509	1.146	1.372	0.92	1.326	1.447

3. 人口増減



左のグラフを見ると、海側に人口が密集していることが分かる。海側でも特に灘区や東灘区のあたりに人が多く住んでいる。西区や北区の山側は土地も広い分、人が分散している。

今回は、人口の増減に注目する。人が多く敦松ということはその分、活動が行われるので、ポテンシャルを評価するの外せない指標である。

下の表を見ると、中央区が飛びぬけて増加している。これより、中央区が勢いづいていることが分かる。その次に灘区、東灘区である。この3つの区以外は人口が減少している。最も減少が大きい区は、北区でその次に西区である。この二つの区は交通の便があまりよくなく、都心とは離れている。

	西区	垂水区	須磨区	兵庫区	長田区	中央区	北区	灘区	東灘区
R2 の人口	238,756	214,936	157,604	106,897	94,213	143,359	210,775	136,426	213,672
H27 の人口	245,782	219,474	162,468	106,956	97,912	135,153	219,805	136,088	213,634
人口増加	-7026	-4538	-4864	-59	-3699	8206	-9050	338	38

以上の3つの評価により、総合的にどこの区のポテンシャルが高いかを判断する。それぞれの評価項目において最も値が大きかった区に9点、その次に大きかった区に8点、その次が7点といった具合に点数を与えその和でポテンシャルを評価する

	西区	垂水区	須磨区	兵庫区	長田区	中央区	北区	灘区	東灘区
医療・福祉	9	7	3	8	1	2	5	4	6
経済	3	1	5	9	3	7	2	6	8
人口増減	2	4	3	6	5	9	1	8	7
ポテンシャル	14	12	11	23	9	18	8	18	21



<https://www.bing.com/images/search>

上の表より兵庫区が最もポテンシャルが高いことが分かった。三項目においてどれも高得点であるため、住むにも出かけるにも適しているだろう。その次にポテンシャルが高いのが東灘区である。その次が中央区である。中央区が一番かと思ったが医療・福祉の影響で少し低くなってしまった。それを踏まえてもポテンシャルが非常に高い。そこで、都心である中央区を中心にその両隣にある兵庫区と東灘区を副都心として再開発することでより神戸を活性化できるのではないだろうか。

他の区に関しても低い項目の点数を大きくすることでポテンシャルを高めることができる。例えば、須磨区では高齢者が多いのにも関わらず、医療福祉施設が少ない。私の祖父母も須磨区に住んでいるが、近くに大きな病院がなく西区や兵庫区に入院しに行くことが何度かあった。これからも病院に通わなければならないことが来るであろう。せめて、近くの病院に通うことができるようにすべきである。